

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

※ただし、4月18日に調査を実施していない学校については、4月19日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

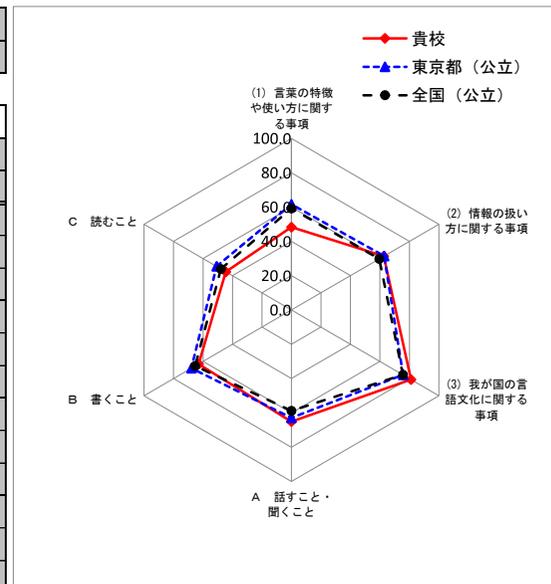
**集計結果**

対象生徒数	江戸川区立小岩第四中学校	東京都（公立）	全国（公立）
	127	70,932	875,574

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	東京都（公立）	全国（公立）
全体			57	61	58.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	48.3	61.6	59.2
		(2) 情報の扱い方に 関する事項	62.6	62.9	59.6
		(3) 我が国の言語文化に 関する事項	81.1	75.7	75.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	65.1	62.9	58.8
		B 書くこと	63.0	67.9	65.3
		C 読むこと	44.5	50.8	47.9
評価の観点	知識・技能	6	58.5	64.4	62.0
	思考・判断・表現	9	55.5	58.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	61.2	63.5	61.0
	短答式	3	60.1	64.6	61.8
	記述式	3	39.6	49.6	45.5

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

**<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>**



**結果分析・課題**

○「話すこと・聞くこと」の領域では、都・全国の平均を上回った。1年生の頃よりスピーチやディベートなど話すことの学習を重ねてきており、その結果が出たものと考えられる。特に「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝えるように話すことができるか」という項目では、資料を提示しての発表活動を繰り返してきたこともあり、正答率が高かった。

○「書くこと」「読むこと」の領域では、都・全国の平均を下回った。特に「表現の効果を考えること」や「本文に書かれていることを要約すること」の項目では多くの生徒が誤答している。「書くこと」については、意図をもって表現を工夫させる学習が不足していたものと考えられる。文章要約については、授業で取り上げる機会が少なく、この項目にかける学習時間が不足していたものと考えられる。

○「知識及び技能」のポイントは、「我が国の言語文化に関する事項」（書写）や「情報の扱い方に関する事項」については都・全国の平均を上回った。一方、漢字や文法の問題では誤答が多く、知識の定着に課題が見られる。

**授業改善のポイント**

○「話すこと・聞くこと」の学習を他の領域の学習にも生かす形で、発表や話し合いを授業に取り入れてきた。このことが今回の調査でも結果として表れているので、引き続き同様に取り組んでいく。

○「書くこと」の領域では、書き上げた作品を鑑賞したり、意図を説明し合ったりする学習が不足していたところがあり、今回の結果はそのことを反映したものであると分析する。今後は「執筆の過程」だけでなく、執筆後の「推敲」や「共有」の段階にも時間をかけることで、この課題を改善していく。また、「読むこと」の領域では、文章を読んで自分の考えをもつ学習に比重をかけてきたこともあり、文章の内容を正確に把握する学習が不足していたことが今回の結果につながっているものとする。生徒の学習状況に応じ、文章を正確に理解するための学習単元を設定して改善を図っていく。

○漢字や文法は一度きりの学習になりがちで、復習の時間を設けたり、それを他の学習に生かしたりすることがなかなかできなかった。今後は復習の機会を定期的に設け、知識の定着状況を細かく確認できるよう改善を図る。また、文法は「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の学習とつなげ、一度学習した知識を活用させることで、定着を図っていききたい。